

このコーナーでは、男女平等参画をはじめとする様々なテーマの本を紹介します。  
男女平等推進センター「パリティ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



国際ボランティア 星野昌子  
—こんな生き方がしたい  
(理論社)  
著者：杉山由美子

「自分の子の養育を放棄して得た第二の人生。誇らしい気分にはなれないけれど、選択は間違っていないかった。今も日本では家庭を守る女性が男性には好まれるけれど、それに合わない女性は、(青年海外)協力隊で世界に飛び出すのも一つの道」と語る星野昌子さん(元敬愛大学教授)は現在83歳のNGO活動家。あの時代、すでに生き方の多様性を求め行動していた彼女について、16年前に書かれた本です。



近現代日本の家族形成と  
出生児数  
子どもの数を決めてきた  
ものは何か  
(明石書店)  
著者：石崎昇子

夫婦が将来設計をもって子を<sup>な</sup>生し、一人前に育てるといふ家族像が定着したのは1960年代。しかし今、非正規雇用化、低賃金化によって、このシステムの基礎が崩れつつある。本書は、明治期からの出生児数の変動と、時代ごとの社会的背景を実例を挙げて検証。安心して子育てできる社会の構築は、緊急の課題だと訴える。



シンドロームカクテル  
Women's  
(WAVE出版)  
著者：水野谷悦子

女性の悩みごとを聞いて、今を生きる女性の生き方を分析。多くの情報から仕事、生活、結婚、ファッションなどを選択し、厳しい環境の中を生き抜く女性たち。集団意識の中で流行から逸脱しないことで安心感を覚え、本来の自分を見つけれずにいる女性たち。豊かな時代の中で本当の幸せとは何か。ありのままの自分と向き合って「私は私を愛しています」と言えるだろうか。

ステキに  
男女平等参画!  
「女性の活躍」編

in  
西東京

初心を忘れず  
今日も一日安全運転で!

No.4

▶小柄な体で大型バスを  
運転する田口さん



「昔から乗り物が好きだった」という田口眞理子さん。20～30代のころは建設業界でミキサー車を運転、40代で西武バスに運転士として転職し、今や大型車両運転歴10年超のベテランだ。彼女が所属する滝山営業所では現在、田口さんを含め6人の女性が運転士として活躍している。路線バスの運転士は、運転以外にも、運賃収受、車内アナウンス、接客等々のすべてを一人こなさなければならない、周囲に気を配れる能力も必要。「渋滞などで時刻表どおりに到着できない場合でも気持ちよく乗ってもらえるように、日ごろからお客様への声かけは欠かさないと話す田口さん。乗客から「お疲れさま」「安心して乗れたよ」と声をかけられたり、中には折り鶴や座布団を作ってプレゼントしてくれる常連客もいるという。こうした温かいふれ合いが、彼女の日々の生きがいにつながっている。



勤務はシフト制で、プライベートも調整しやすい。今は子育ても一段落し、休日には趣味のゴルフをはじめ、会社の仲間との山登りや釣り、オートバイツーリングなどを楽しんだりしている。

今後の目標を聞くと、「初心を忘れることなく定年まで安全運転に努めたい」と。その笑顔は、乗客への思いやりと責任感にあふれていた。

◀西東京市を回る「はなバス」にも乗務している。  
ブルーの車体デザインはお気に入り